

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	大洲総合運動公園：土木建築部 公園・生活排水課 大分県立総合体育館：教育庁 体育保健課
評価対象期間	平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大洲総合運動公園及び大分県立総合体育館	施設種別 レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分市青葉町1番地	
	設置目的	(大洲総合運動公園) 工業地帯と市街地を遮断する緩衝緑地帯として、また県民の健康と体力の維持・増進を図り公共の福祉の増進に資するため、各種スポーツ施設を備えた運動公園として設置。 (大分県立総合体育館) 県民の体育及びスポーツの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため、総合体育施設を備えた体育館を設置。	
指定管理者	名称	ファビルス・プランニング大分共同事業体	
	代表者名	代表団体 株式会社ファビルス 代表取締役 野田 武太郎	
	所在地	大分市青葉町1番地	
指定管理業務の内容	(大洲総合運動公園) ①公園施設の維持管理及び修繕に関する業務 ②公園の利用の受付及び案内に関する業務 ③公園の利用の許可に関する業務 ④公園の利用促進に関する業務 ⑤その他知事が特に必要と認めること (大分県立総合体育館) ①体育施設の維持管理及び修繕に関する業務 ②体育施設の利用の受付及び案内に関する業務 ③体育施設の利用の許可に関する業務 ④体育施設の利用の促進に関する業務 ⑤前各号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要と認める業務		
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし		
指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日(5年間)		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	
(1)施設の設置目的の達成	
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。	
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。	
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	
【所見】	
(大洲総合運動公園)	
○ 大洲総合運動公園の平成26年度の利用者は174,958人で前年度187,702人に対し93.21%となっている。前年度と比べ、大規模行事のプロ野球オープン戦・日本女子ソフトボール1部リーグの開催がなかったことや、毎年、参加者の多い秋の大洲公園祭りが台風の直撃で屋外行事を中止したこと等が主な要因と思われる。	
○ 利用者の少ない冬季に、プロや学生チーム等が行う自主トレ・合宿等を誘致し、新たな利用者の定着を図るため、春・秋・冬にコスプレイベントを開催している。また、グループによるミニコスプレストリートライブを日常的に受け入れている。施設の無料開放を、春・秋に実施し、また、利用が少ない1月にもテニスコートの無料開放等を行っている。自主事業では、新たにオリンピック種目の『BMX(パフォーマンズ自転車)教室』や『元全日本チャンピオンによるテニス教室』を開催し、パートナーシップ事業では、夏休み、家族で楽しめる【バッティングスタジアム&納涼花火大会観賞】や『ソフトバンクふれあい野球教室』等を開催している。またホームページで全施設の空き状況の確認やテニス教室等の申込みが出来るようにして利便性の向上を図っている。	

(大分県立総合体育館)

- 県立総合体育館の利用者は291,180人で前年度295,153人に対し98.65%となっている。前年度と比べ、大規模行事の大相撲興行が無かったことや、毎年、参加者の多い秋の大洲公園祭りが台風の直撃で、来場者が非常に少なかったこと等が主な要因と思われる。
- 自主事業として春休みや夏休み等に子供を対象としたダンス、かけっこ、ボール投げ、なわとび等の教室・女性や年配者でも気軽に利用できるフィットネスプログラム(レスミルズ)を中心とした各種カルチャー教室・新たに、体組成計の測定結果に基づきトレーニングの効果的な指導を行う『体脂肪チェック』や65歳以上の男女を対象に『健康づくりのための運動教室 無料体験会』・ワンコイン体験会や授業内体験会を開催している。施設の無料開放を、春(こどもの日)・秋(体育の日)に実施し、各種体験会や親子で楽しめるイベント等を行っている。またホームページで会議室や研修室の空き状況の確認やカルチャー教室等の申込みが出来るようにして利便性の向上を図っている。

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 複数の施設の管理運営業務を円滑に行うために共同事業体の関係幹部で構成する『共同事業体連絡調整会議』を毎月1回開催し、年間の利用者数や使用料収入の目標を常に念頭に置き、問題点や新規事業への対応など全般にわたり協議を行い、情報の共有化を図り、様々な取組みに努めている。前年度に比べると、大規模行事のプロ野球オープン戦・全日本女子ソフトボールリーグ戦・大相撲興行が無く、台風等の影響も受けたが、公園と体育館を合わせた利用者数は466,138人で、指定管理要件である利用者数の年間目標指標の413,700人を超えており、達成率112.7%となっている。
- 冬季など一般利用の少ない時期の利用促進手段として、県外や国外のスポーツ関係者にも利用してもらえよう『運動部等の合宿や自主トレの誘致』を、斡旋先となる県内外の旅行エージェントや地元のホテル等に働きかけており、合宿や自主トレは継続的な利用が増えている。構成団体のプランニング大分(大分合同新聞社グループ)が、地元根差した多角的な広報活動(大分合同新聞・モグモグ・エフエム大分・シティ情報大分等へ広告掲載や告知)を展開している。ホームページによるイベント情報・カルチャー教室の案内・地元公民館等へポスター掲示やチラシ回覧依頼・近隣を中心に広告の新聞折り込みやポスティング等を実施し、イベントやカルチャー教室等に多くの参加者がみられる。

(2) 利用者の満足度

- ①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
- ②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
- ③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
- ④利用者への情報提供が十分になされたか。
- ⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

(大洲総合運動公園)

- 通年の窓口での利用者アンケート調査に加え、各利用団体には同調査を個別にお願いしている。また、評価部会の意見を受け野球観戦客に対し同調査を実施している。コスプレイベント参加者にも同調査を実施し、広く意見を徴している。利用団体を含め通年実施150名の結果では、古い施設のため、一部、使い勝手やトイレ・シャワー等への不満がみられるが、また利用したいとの回答が91%を超えている。観客77名の結果では、一部、駐車場の広さに対する不満がみられるが、また利用したいとの回答が93%を超えている。コスプレイヤー52名の結果では、インターネットで全国に当イベントが発信されていることで、大分市外、県外からの参加者も多く、10~20代の女性がほとんどであることから、一部、部屋の臭いや空調に対する不満がみられるが、また利用したいとの回答が100%である。
- 意見に対し、できるものは速やかに対応し、老朽化したトイレや駐車場等の改善については、県と協議し計画的に進めている。また、調査結果については集約しホームページで公表している。
- 窓口で常設する『お客様の声BOX(ご意見箱)』や電話・メール等による苦情、意見については、直接会って聞き取るなどし、速やかに対応している。苦情・意見や対応方法については毎日のスタッフ会議で共有し周知を図っている。
- ホームページ・メディアを活用した広報やチラシの回覧・ポスティング等により、十分に情報提供している。
- ホームページでテニス教室等の申込や全施設の空き状況の確認ができるようにして利便性を高めている。また、サービス改善事業でトイレのウォッシュレット化やスイッチレス化などを進めている。

(大分県立総合体育館)

- 利用者アンケート調査は窓口で期間を定め実施しており、425名の多くの利用者からアンケートが寄せられている。男性327名・女性98名の結果では、古い施設のため、一部、更衣室の狭さやロッカーの古さ等への不満がみられるが、受付やトレーニングルームでのスタッフ対応や清潔さについては5点満点で4.2~4.4である。
- 意見に対し、できるものは速やかに対応し、老朽化したシャワーや駐車場等の改善については、県と協議し計画的に進めている。また、同調査結果については集約しホームページで公表している。
- 「お客様の声BOX」を常設し、苦情・意見に対しては、直接電話等で聞き取りを行うとともに、対応の内容については体育館1階フロアに設置した掲示板でもお知らせしている。苦情・意見や対応方法については毎日のスタッフ会議で共有し周知を図っている。
- ホームページ・メディアを活用した広報やチラシの回覧・ポスティング等により、十分に情報提供している。
- ホームページでカルチャー教室の申込みや会議室、研修室の空き状況の確認ができるようにして利便性を高めている。また、サービス改善事業でトイレのウォッシュレット化やスイッチレス化などを進めている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

- ①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 電気の需給契約を九州電力から新日鐵住金エンジニアリングに変更し、電気料金の縮減を図っている。
硬式球場の水洗トイレでは50ヶ所に節水コマを取り付け、グラウンド散水等については、水道水と雨水の混合水を利用し、下水道料金を支払う必要のない散水口5箇所にメータを取り付け、経費縮減を図っている。
主要施設(硬式野球場、体育館等)の手洗蛇口25ヶ所を自動化し、トイレ照明のスイッチレス(人感センサー)化を14箇所で行い、感染症対策と併せ節水・節電対策を図っている。
電話とインターネットについては光回線化を進め、コスト削減を図っている。
剪定木や枯れ葉を、燃料や堆肥等として希望者に差し上げ、廃棄物処理経費の縮減を図っている。
- ビル総合管理業のファビルスが体育館の清掃、全体の警備・設備の保守・管理等を直営で行い経費を縮減している。
機械と電気設備の管理は個別に担当を配置せず、両方の資格を有する人材を配置している。
公園の清掃についてはシルバー人材センターと連携して地元住民の活用を図っているほか、近隣の会社・学校・各種団体等がボランティアで清掃を行っている。
- 様々な経費縮減の取組みを行っており、効率的な執行がなされている。

(2) 収入の増加

- ①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 合計使用料収入(公園+体育館)は57,828千円で、消費税の増税により県条例で利用料金等が改正されたことに伴い、年間使用料目標額が前年度と比べ100万円増加した52,000千円に対し達成率111.2%となっている。

(大洲総合運動公園)

- 使用料収入は、15,268千円で、利用料金改正等で直接比較はできないが、前年度16,449千円に対し92.8%である。
前年度に比べ、プロ野球オープン戦など高額な利用料金収入行事がなかったことが主な要因と思われるが、軟式野球場・テニスコート・多目的広場等の使用料収入を上げ、落ち込みをカバーしている。

(大分県立総合体育館)

- 使用料収入は42,559千円で、利用料金改正等で直接比較はできないが、前年度41,503千円に対し102.5%である。
前年度に比べ、高額な利用料金収入の大相撲興行はなかったが、フィットネスプログラム(レスミルズ)や子供を対象としたダンス・なわとびなど各種自主事業(カルチャー教室)の展開、体組成測定結果に基づくトレーニングの適切で効果的な指導・ワンコインや授業内体験会など様々な取組みによることが主な要因と思われる。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 経験豊富な元公園協会職員等を配したファビルス(ビル総合管理)が中心となり、プランニング大分(総合広告代理)及びピコナスポーツ(協力支援企業)と連携・協力し、最小限の人員で、毎月、共同事業体連絡調整会議を開催しながら情報を共有し、適正な管理運営を行っている。
- 国や県等外部主催の各種研修会や講習会に積極的に参加している。また、人権同和問題・施設の安全管理等をテーマに共同事業体幹部による研修会を毎月開催し、スタッフへの周知を図っている。
さらに、利用者と直接接する体育館ではスタッフの接客研修などを毎月実施し、スタッフに対し個人情報理解度テストを行うなど向上に努めている。

- 地元自治会・各種団体・企業・学校等と連携して公園内の清掃、花壇づくり等に協力・参加してもらっている。また、高齢者就労支援や地元住民参加の一環として草刈・清掃等のスタッフをシルバー人材センターと連携し派遣してもらっている。
総合型地域スポーツクラブや団体等と連携・協力し、様々なスポーツの無料体験会やカルチャー教室等を開催するとともに、それらを支援するため、掲示板やホームページ等で活動状況を掲示している。「障がい者スポーツ振興支援自販機」を設置し、売上の一部を「県障がい者体育協会」を通じて県内の障がい者スポーツ団体・アスリート等に支援している。
さらに、中学校と連携し、「青少年育成・社会教育事業」として職場体験学習等を行っている。
イベント等では公民館や自治会等にポスター掲示や回覧をお願いし、多くの住民が参加している。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。
- ⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 「県営体育施設の設置及び管理に関する条例」や「県都市公園条例」を始め、関連法令を遵守している。また、法に基づき情報公開・文書取扱など諸規程を整備している。
- 個人情報・データの管理責任者等の体制やデータ保護・廃棄の手順等、情報漏洩防止のための個人情報保護規程を整備し、スタッフには個人情報理解度テストを実施している。また、「個人情報保護規程」の抜粋をホームページに掲載し周知している。
- 県条例の手続により公平・平等に貸出している。野球場と体育館は、主な大会日程を決めるための調整会議を開催している。一般利用は、毎月、抽選会を行い、その後は、窓口で順次受け付けている。
- 収支内容は適切である。財政的援助団体等監査結果では特に指摘事項はない。
- 安全管理マニュアルを整備している。毎日巡回し、異常の早期発見と事故の未然防止に努めている。また、定期的にスタッフのAED講習を行っている。軽微な修繕は直ちに行っている。
- 早朝・夜の巡回警備と夜間・休日は機械警備を行っており、警備本部は車で5分の場所にある。緊急連絡網が確立しており、緊急時に速やかに対応できるよう県が発信する「県民安全・安心メール」に登録している。また、自衛消防組織があり、年2回消防訓練を行っている。南海トラフ地震の津波を想定した防災・避難訓練を利用者等に参加してもらい実施しているほか、津波避難場所に指定された硬式野球場の2階通路に、飲料用として災害時対応型自販機3台を設置している。また、近隣自治区に、津波緊急避難場所として硬式野球場入口の鍵を貸している。感染症対策として、主要施設のトイレの手洗い蛇口等の自動化や照明スイッチレス(人感センサー)化を進めている。
- 大きな事故は無いが、怪我等については救急車を呼ぶなど適切な対応をとっている。また、台風や突風による倒木については、速やかに撤去している。

【総合評価】

【所見】

(大洲総合運動公園・大分県立総合体育館)

- 施設の管理は問題なく行われている。
- 前年度に比べ、プロ野球オープン戦・大相撲興行など大規模行事が無かったが、各種自主事業やパートナーシップ事業等を展開し、また、メディア等を活用した多様な広報やホームページでカルチャー教室等の申込み・各施設の空き状況の確認ができるよう利便性を高め、利用者の増加に努めている。
- 地元自治会・各種団体・企業・学校・NPO法人・ボランティアグループ等と協力・連携している。

【今後の対応】

(大洲総合運動公園)

- 現在、駐車場拡張工事が行われており、完成後、大きな大会・イベントの開催や東京五輪開催に向け、オリンピック・パラリンピックの練習会場、また、プロ・アマ問わず国内外のスポーツチームのキャンプや遠征など利用者増加の取り組みが期待される。

(大分県立総合体育館)

- カルチャー教室の充実等で体育館の魅力が高まる中で、利用者の多いトレーニングルーム等について、幅広い年齢層の多くの男女が利用することが期待される。

【指定管理者評価部会の意見】

- 廃棄物処理経費の削減のため、剪定木や枯葉を燃料や堆肥等として希望者に配布している取り組みや下水道料金低減のため、下水利用としない散水利用箇所にメーターを設置して使用分を控除するなど、経費削減のアイデア、実行力の面で高く評価できる。
- 軟式野球場等でキャンセルなどで空きが見込まれる際には営業活動を行うなど、収入増加のための取り組みも積極的に行われている点も評価できる。
- ホームページ上で施設の空き状況を確認できるのみであり、抽選となった際には施設まで行く必要がある。利用者から大きな不満は出ていないとのことであるが、平等性を保ちつつも利便性を高める予約や抽選の方策についても検討されたい。